総合科学部40周年記念式典講演会

日時　平成二十六年八月二日（土）
十一時三〇分～十二時三〇分
場所　ANAクラウンプラザホテル広島

（株）進研アド取締役
岡田　大介氏（昭和53年入学）

「はばたけ総科生
―豊かな社会人生活における大学の学びとは？―」

～大学で岡田先輩が学んだこととは？～

私が大学で学び得たことは大きく分けて三つ、多様性、主体性、そしてリカバリーする力です。

まず多様性についてですが、総合科学部は文系理系問わず様々な立場の人が集まった学部なので、多くの人と出会い、多様な視点と柔軟な思考を手に入れることができました。

また総合科学部の教員・職員の方々は学生に非常に協力的で、何か難しいことをやろうとする時は止めるのではなく、どうやったらできるかを一緒に考えて下さいます。そのため学部内は新しいことをやろうという積極的な気質に溢れています。大学祭などを通じて得た、自ら手を挙げ、チャレンジし、主体的に新しいものを生み出す力は、社会に出てからも必要となる力の一つです。

また、年単位の大きな時間軸で物事をとらえ、広い視野を持ち、内省して行動できるようになりました。大事なことは、短い間で負けていても長い期間で見た時に盛り返しをはかり、トータルで勝つことです。

～総科生に学んでほしいこと～

まず好きなことをとことん学んでほしいです。学生時代は“何をするために何を学ばないといけない”という計算をしなくていいという強みがあります。人生のある局面において、振り返ると昔学んだ経験が生きている、そんなシーンに出会います。物事はつながっていますので、迷ったらチャレンジしてみてください。そして教養

と汎用的能力。教養というのは人間社会を豊かに生きる知恵であり、それを求める姿勢でもあります。汎用的能力とは、社会に出て課題を発見、解決法を提案、実行し、さらに次の改善につなげる「学習を進化させ続ける」力であり、実は大学での学びにも共通するものです。

～海外で働くためには～

総合科学部の学生さんの中には、将来海外で働きたいと考えている方も多いでしょう。コミュニケーション能力、強い好奇心、時代への洞察などなど、海外で働くために必要な能力は色々あると思います。もちろん語学はできた方が良いですが、それより重要なのは「専門力」です。自分の専門分野・得意分野といった「強力な武器」を持つことは現地の社員に認められる上でも重要です。なぜならば現地の社員は、自分たちが仕事をする上で新しいことを学べるかシビアに見ています。単に言葉ができるだけでは仕事上の付き合いは長続きしません。しかし、それより大事なことが「人間力」。現地の歴史や文化への関心と、「人」としての振る舞い。これは先に挙げた教養から築かれていくものです。

～台湾での勤務経験から～

私自身はベネッセグループに勤めていて、1995年から台湾に勤務していました。海外で事業をやり抜くのに必要なものを特に三つ挙げるとしたら、パッション、プラン作成能力、そして実行力です。特に日本とは違うさまざまな困難に直面したときに頑張り続けられるかどうか。それは個人のパッションの強さに影響されます。会社・事業に置き換えるならば「実現したいビジョンや理念」であり、その崇高さが共感を受けるものであるかどうかが大切です。台湾に行ったときに現地で受けた研修で、「ここは日本ではない。同じやり方ではだめだ。」たとえば、「日本で“今この会社はピンチだから、みんなで協力して会社を立て直そう！”と言ったら社員は奮起して働くだろうが、海外で同じことを言ったら翌日から誰も会社にやってこない。みんな就職活動に行ってしまう。」と言われたのですが、大切なことは危機意識を共有する前にビジョンや理念を伝え、共感してもらうことです。その上での課題共有と対策に向けての協力は、国を超えて共通のものだと思います。

私の場合は、台湾の幼児と保護者に年齢に応じた豊かな体験の機会を提供すること、それは国境を越えて、我々の理念を実現することに他ならないという強い信念。それがあるからこそ、困難に出会った時にも頑張れるし、共感する現地社員の団結力を発揮することも可能になります。大義があるからこそ、粘って戦えるし仲間も集まるのです。

～豊かな社会人になるために～

今、国内海外問わず産業界が求めているのは、「主体的に課題を発見し、解決する力を持った人材」と言われています。大学の学びの中で経験する「仮説→実行→検証」の繰り返しは、その訓練でもありますし、一人で内省することと周囲の知恵を集めることも大学生活の中で経験できます。

社会に出て役立つ力、教養や人間力を身につけるのにゴールはあ

りません。世の中の知識や情報は陳腐化していきますが、学びに向かう力（何を学ぶか。どう学ぶか）があれば自分の人生を自ら設計していけます。

『「漠然と迎える未来」には孤独で貧困な人生が待ち受け、「主体的に築く未来」には自由で創造的な人生がある』という言葉があります。これからは個人の力が問われる時代です。総合科学部で、学び続ける力を鍛えておいて下さい。

【担当】　25生　小林美月
25生　渡邊恭平